

2011年度年間テーマ

15周年を迎えて—私たちが大切にしてきたこと—

私が受けた
ホスピスケア

私が自身にできる
ホスピスケア

私が他の人にできる
ホスピスケア

岡崎ホスピスケアを考える会

大切にされた人

総会で元力士のSさんの隣になった。

「おすもうさんがなぜ介護の世界に？」と私。

首の故障で力士を辞めることになった。現役時代

慰問に行ったことがある福祉施設の院長に報告した。「これから生活に困るだろ？ここで働いたら」

掃除、荷物運びなど力仕事は得意だった。

若い力士には介護を必要とする祖父がいた。

ひよいと持ち上げることができた。

しかし「イタタツ」と言った。技がなかった。

院長が言った。

「君のような力士が、介護の勉強をしたら世界一の介護士になれる」と。決めた。勉強した。

今日、彼は若いスタッフを連れてきてこう言われた。「これからも、心温かな介護ができるようスタッフと共に勉強していきたい」と。

総会で、病気や老いをしっかり見せてくださる方、辛かった生い立ちを語り、懸命に前を向こうと生きている方。そんな人たちを温かく包んでくれるような会員みなさんのまなざし。

笑顔とやさしさいっぱい総会でした。

みんなきつとどこかでだれかに、やさしく大切にされた人たちに違いない。

橋詰清子

2011年度総会

3月10日（土）岡崎福祉会館 302号 出席者 40名

翌11日はあの大震災から1年になります。犠牲者の御霊に全員で黙祷をささげました。

活動報告、会計報告ともに承認され来年度の計画、予算案が提示されました。

2012年度は会が発足して15周年を迎え「私たちが大切にしてきたこと」をもう一度確認し合えるような「勉強会」を企画し、具体的な日程、内容は年三回発行する通信でお知らせします。

「手縫いボランティア」「つどい」「愛知病院緩和ケア病棟ボランティア」についても2011年度同様に活動します。議事に引き続き、安江満悟先生がインタビューを受けていらっしゃるDVDを見ました。15年前愛知病院副院長だった先生は、一緒に勉強会をし、ボランティアを最初に受け入れてくださいました。「幸せな人にボランティアをして欲しい」それは「不幸の中でも幸せを感じる人」が条件でした。その後この考え方に賛同し顧問をお願いしました。現在和歌山県那智勝浦で森を守り患者さんに接し孫を育てている話の中で、根底にあの頃と同じ先生がいらっしゃることを映像から感じました。音量が小さかったため内容の説明がありました。

その後、新婚はやはやの27歳から元気いっぱいの90歳の男性までこの日の出席者全員が近況など話しました。命について考え、語り合うことのできる仲間がいる安心感、喜びをそれぞれの言葉で発言し、なごやかなうちにも生きている意味を再確認することができました。（阿部啓子）

【感想】

- ・第 15 回の総会が盛会に開かれましたこと嬉しく思います。お集まりの皆様の一人ひとりのお顔が明るく輝いていますこと、自分のことのように嬉しく思います。みなさんの体験談も本当に参考になりました。とてもよい会でした。

心に残った言葉「死は終わりではなく、次世代を育てる始まりだった」

- ・よく聞く言葉に「他者（ひと）に迷惑をかけないで最期を迎えたい」というのがあるが、他の面から考えると、他者を拒絶する言葉とも聞こえる。よりよい甘え、よりよく他者を頼ることの大切さを考えさせられた。



- ・アットホームで、とても和やかな会で楽しい時間をすごせました。人との関係を築いていくことの大切さ。生きること、死ぬことに対して自分から勉強する大切さに気づかされました。私にできること「光ヶ丘ダンス部 OB でダンス？」などできることは何でもさせてくださいね。♥

（近況報告に思わず笑顔）

- ・私の生き様について毎日の暮らしの中で考えさせられている今日この頃ではありますが、本日の総会の中で皆様（会員）のお話を伺い本当に良い心の思いを感じた次第です。
- ・活動は随分と無沙汰の状態ですが、久し振りに皆さんとお会いでき話を伺い楽しかったです。
- ・本日は参加させていただき誠にありがとうございました。いつもいつも大変勉強になります。私どもは、終末期を迎える方を受け入れる施設として接し方や考え方などまだまだ勉強しなければいけない。またそれをスタッフみなで話し合い“温かい介護”を提供できたらと思います。
- ・今日はいろいろな人の生き方をお聞きして、あらためて仲間っていいなあと思いました。
- ・目標を持って生きること、今を精一杯生きること、自分らしく生きること。
たくさんの人の話を伺うことは、知らない世界を見たり聞いたりすることだけで少しでも成長できたらと思います。これからも認知症などの勉強会に参加していきたいと思います。
- ・「自分らしく生きる」あらためて考えさせられました。この言葉は、自分はもちろん、他の人のことを思いやる心がうまれるのですね。

- ・すばらしい会員が集う総会でした。講師の講演を聞くだけの会より会員交流でとても良かったです。お一人おひとりの発言が身に沁みる内容で本当に充実したものとなったと感じます。
- ・「15年の歩み」ずっと真剣な姿勢が続いていますね。原点に戻れる場です。今日も皆さまのお話を伺い「大切なこと」「生き方」を思い、“こころのリセット”少しできたか・・・と。素直に「自分を開く会」になりました。
- ・交流会の皆様のお話は心の栄養になりました。身体は年々老いますが、心は年々豊かに、広く、深くなるような気がしています。皆様のお話のおかげです。感謝です。
- ・今日すてきなみなさんにお会いできたこと、とても嬉しく思います。今日の集いでとてもおどろいたことは「腰が痛くてひざが痛くて、どうしたいから治したいのか？」という問いかけでした。私はそんなこと一度も思ったことがなく「ただ元のように元気に動ける普通の体になりたいから治したい」としか思っていませんでした。これから一つ一つ目標または願いを持って先に進んでいきたいと思いました。

- ・今日の総会は大変活気があり、この活気がこの会の活動の中に生きています。私が関わっている他の組織にはない感動を覚えました。
「私が変われば周囲が変わる」という言葉から反省しています。
「いつも喜んでいなさい」これは長寿の秘訣です。
いつも喜ぶ→人を喜ばすことです。
それは自分に返ってきます。
「今の自分に何ができるか」いつも考えていたいと思います。



(「一人3個はあるヨ」軽食を楽しみました)

- ・安江先生のDVD内容説明にあった話で「治しておわりではなく、治して何がしたいか」本当にその通りと思われる言葉だと思います。私自身も昨年手術をする病気をし、人生初めての入院をしました。治したからには今後何がしたいか目標を持って歩んでいきたいと思っています。

“緩和ケア病棟ボランティア”の報告

ティーサービス・アロママッサージ・季節の模様替え・楽器演奏
毎週金曜日1:30~4:30 緩和ケア病棟ボランティア室
アロママッサージ 第134木曜日1:30~3:30 練習第2木曜日1:00

ティーサービス・アロママッサージ ボランティアとしていつも大切にしていること



●一番は「患者さんとそのご家族から『部屋に入っていいよ。身体を触っていいよ』と、温かいもてなしを受けています。そのもてなしに応えられるように」ということです。

私たちは患者さんから先にもてなしを受けていることを忘れず、最高のもてなしでお応えできるよう、自分自身の体調管理、心の健康に努めています。

ティーサービスを始める前に全員で「大切にしていること」「約束ごと」を確認しあい、心を静かに、患者さんの呼吸に合わせ、相手のエネルギーを奪わないように、全体の空気を感じながら、蝶のようにひらひらと動くようにしています。

毎回のお菓子作りも季節を感じるものを取り入れたり、緑茶、コーヒー、紅茶も一番おいしい状態で出せるようにみんなで心がけています。

「今日のお茶おいしかったなあ。もう一杯お代わりできますか?」「何も食べることができなかったけど今日のかき氷がおいしかった。ありがとう」そんな嬉しい患者さんの言葉をみんなで分かち合っ
て一回一回を大切にしています。(稲垣早苗)

●アロママッサージも今年の7月で丸5年になります。この頃つくづく思う事は、私は私のためにアロママッサージをしているんだなあという事です。患者さんの笑顔に励まされて、言葉に感謝、感激し、沢山癒されて、心も体もポカポカになって、そして時々、そりゃそうだと考えさせられます。誰かのために、大切な人のためにマッサージができることは本当に幸せだと思います。マッサージを覚えませんか。(大澤)

“手縫い”の報告

愛知病院・市民病院・国際病院・施設へ雑巾や依頼された品を作り届ける。
・第2火曜日10:00~12:00 愛知病院外来病棟患者サロン・各自宅

●2011年度もみなさまのご協力、ご寄付のおかげでたくさんの手作り品(総会資料参照)を各病院、施設にお届けすることができましたこと、感謝いたします。



私たち手縫いボランティアが大切にしていることは、人です。

いっしょに手作りの雑巾を縫う仲間、そして私たちの作った物を使ってくださる方々のことを大切に思い、活動できたらと思っています。バンダナの生地を選ぶ時『お化粧をしていない顔にどんな色や柄をもってきたら元気がでるかしら』と想像しています。一人でも多くの人に私たちの作ったものを使っ
ていただけたら嬉しいです。(勝川)

●患者サロンに場所を移して手縫いをしています。手縫いが目的ですが情報交換の役割りも大きいです。未経験の“老い”というエリアに入りつつある私にとって皆さんとの交流から「私だけの悩みではないんだ」と大きな安心をもらっています。これからおばあちゃんの人生のためにいつまでも「手縫いの会」が続きますように。(稲垣直子)

“つどい” 報告

患者・家族・遺族(誰もが遺族)の集まり
第3木曜日10:00~12:00 事務局(橋詰宅)

必ず開いています。毎回ここでの話はこの日だけでおしまいになっています。一緒にお茶を飲みます。これが大切に守っていることです。どなたでもおいでください。(山崎・橋詰)



「老いが私に教えてくれること」

和田あい子

同居している母が今年、八十二歳になる。母は腰痛、肩こり、腱鞘炎の痛みを和らげる為に毎朝、鎮痛剤をぬって起きてくる。

背中丸くなり、一回り痩せて小さくなっても、忙しい私に代わって、食事の支度から、私が母の年になったとしても、こんなにはできないと思うほど、いろんな事をしてもらっている。

そんな母も七十五歳からの坂は、聴力、筆圧、握力の衰え、隅のほこりは見えないように丸く掃除され、汚れたタオル、置いた眼鏡、冷蔵庫の奥の食品などは目に入らず、もの忘れは殊の外ひどい。だから一年一年衰えている事が、そばにいる私にも目に見えてわかる。

断捨離がはやって、自己完結して死にたいと言わんばかりに、何もかも片付け、死に向けて準備する話を聞くが、母は「私が死んだら捨てて」と、涼しい顔。よく眺めていると、私と同じ二十四時間が、母のところではゆっくり流れている。しかしその時の流れ以上に動作がゆっくりになり、だから、母としては一日があつという間なのだ。

老いることは、落差の問題であり、一つずつ出来たことを断念していくこと。そこに喪失感や諦め、痛み、そして、体の不調が追いかぶさる。

私達は大変な中で、一つの事を成し遂げた後に、幸せを考えてしまうが、苦しみを伴う中でも、今出来る事の一つ一つが、幸せなのだ。



写仏「地藏菩薩」 向野拝写

ひとすぢの煙となりて昇りゆく夫受け入れよ清明の空
相続の手續き終へし帰り道矢車草の青が目沁む

(阿部啓子)

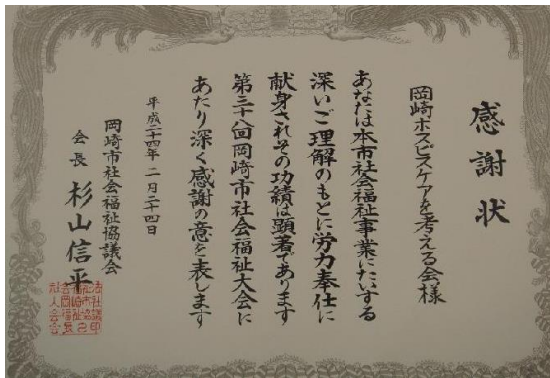
東北地方大震災より一年がたちました。総会でも、被災し亡くなられた方々に皆で黙祷をささげました。しかし一年が過ぎても、放射能の問題は先が見えません。福島を故郷とする私は思うたびに心身が震えます。

“姉よ、友よ、心を強く持ってください”と祈るばかりです。

あの日から今日ある事に感謝し、一日一日を大切に生きようと思っています。

(向野)

- ◆2月24日 岡崎市福祉大会が岡崎武道館で開かれました。
社会福祉協議会より感謝状をいただきました。



- ◆3月6日 男川小学校5年生が、愛知病院の中庭で患者さんたちに歌のプレゼントをしました。
最初に当会と一緒に歌った子供たちは、当時指揮者の西脇先生の話ではもう24歳だそうです。
神谷花子さんと勝川さんが飴を持って応援にいきました。

- ◆勉強会で教えていただいたり、私たちが信じて緩和ケアボランティアを受け入れてくださった
陶山院長先生が3月で定年退職されます。



3月2日 感謝の会 (ティー・アロマボランティアのメンバー)

◆運営委員会からのお知らせ

◇ ホームページ新登場

会員の難波清子さんが岡崎ホスピスケアを考える会のホームページを作成してくださいました。
アドレスは 御意見などもお寄せください。

◇ 運営委員からのお願い

2012年度の会費を納めてください。同封の振込み用紙でお願いします。
脱会を希望される方も遠慮なくお知らせください。

◇ ご寄付ありがとうございました。神谷花子さま 稲垣直子 匿名さま